

研究開発成果 実装支援プログラム
平成22年度 報告書

実装活動の名称

「家庭内児童虐待防止にむけたヒューマンサービスの社会実装」

採択年度	平成21年
実装機関名	立命館大学
実装責任者	中村 正

1. 概要

家族再統合実践を継続してきた。「男親塾」と称した虐待父親向けのプログラムを実施した。成果の第1は、虐待事例の問題域の広がりである。具体的には、月2回のグループワークと月2回の個人カウンセリングもしくは夫婦カウンセリング、そして参加している家族を対象にして心理、医学、福祉の担当者があつまるケース会議を適宜開催した。グループワークは月に2回を基本とした。2010年4月から2011年3月までに計24回、カウンセリングは、16回のセッションを実施した。

第2は、人材育成に関する目標を掲げていたこととかわり、大規模な家族臨床理論の構築にむけたシンポジウムを開催したことである（2010年12月12日、100名の参加があった）。児童相談所の内外から関係者を集め、家族再統合の多元的な展開についてケースマネジメント、スキルの組み込み方、虐待家族の関係性の詳細分析、子どもの意見聴取の法心理的インタビューの手法など新しいテーマに取り組んだ。再統合のための社会技術という言い方の内実がみえてきたといえる。

実績の第3は、当初の申請書に記載した目標であるヒューマンサービス社会技術の応用に関して、近隣自治体への拡大を掲げたが、今年度より大阪府（5ヶ所）と堺市（政令市）に拡大することができた。この結果、大阪府内全域を対象にすることができている。くわえて、個人情報保護に関する誓約書、研究協力承諾書、本人との契約書等を準備し、受け入れを開始した。

実績の第4は、とくに困難な再統合となる性虐待の家族に対しても対応を開始したことである。かねてよりニーズはあったが面談にまで指導できたことは大きい。これはグループワークへの参加を促進させるが当面は個人対応として大阪府の中央子ども家庭センターでのカウンセリング対応としている。2011年1月から3月にかけて3回のセッションを実施した。虐待親の対象が広がったことは家族再統合の質を深めていくことになる。多問題家族への対応のとりかかりができたといえる。

実績の第5は、さらに対象地域を広げ、京都市との連携に向けた相談を開始した。代表者の中村が研修を実施した。これは近畿児童相談所の研修会（2010年9月に大阪市で実施）を大規模に開催できたことと関わっている。この研修会において特筆すべきは虐待した父親の参加を得て、こうした取り組みの必要性を当事者から報告できたことである。当事者参加型のプログラム開発は対人社会サービスとしてのヒューマンサービスを社会実装する際に有意義である。コストと効果、プログラムコンテンツ開発、動機形成とその維持、専門家へのインパクトなどの諸点からその有意義な点が確認できると想定している。

こうした取り組みは、本プロジェクトの当初に掲げた目標（とくに近隣自治体に拡大すること）を早期に実現できる展望を拓いたといえる。もちろん、核心にあるのは家族支援であり、ニーズのある家族の再統合を着実にすすめることである。現在は、グループワークに8家族が参加しており、被虐待児童のケアを中心しつつも、再統合実践をすすめていきたいと考えている。性虐待対応が2件、刑事事件事例（傷害致死事例と傷害事例の計2件）も加えると虐待の質的な広がりに対応しつつあるといえる。

2. 実装活動の具体的内容

継続して、グループワークを実施する予定である。第1に、月2回のグループワークを計画している。大阪府内全域に拡大できたこととかかわり継続して実施してきた。第2に、参加している家族を扱う担当者のケースカンファレンスを開催し、再統合のプロセスのプロファイリングのデータとし、エビデンス化を図ってきた。ケースメソッドとして他の事例に活かせるような記述と支援の客観化を試みた。第3に、人材育成について、継続してソーシャルスキルトレーニングの中級者向け講座を開催した。また、支援者のバーンアウト防止や実践技術の洗練をめざしたソマテックアプローチ（心身統合的な援助者の援助に関すること）を導入した訓練をおこなった。第4に、こうした取り組みを理論化する努力を開始した。これは家族臨床理論として広く還元するためのシンポジウムをおこなった。

これらをまとめて実装のための家族再統合の臨床と理論として体系化していくこととした。虐待する親の特性に配慮し、家族関係という相互作用を舞台に展開される心理臨床的な支援とは何かということを確認にし、子どもの最善の利益を実現することを理念とすることの重要性を鍵としている。子どもの再統合に向かう意志の形成、その自己決定の支援、そこには自己決定と選択を支援する見地からの被虐待ケアの内実化や援助職者の倫理意識や行動指針などが含まれる。選択と決定にかかわるコミュニケーション技術としても体系化していきたい主題である。そこにどんな資格や知識を有した専門家が関与するべきなのかについての技法として開発していきたい主題群である。そのためにも再統合プロセスに関わる対人援助職者が一同に会し、シンポジウム自体が大きなケース会議のように機能し、虐待への危機介入後の家族臨床論のシミュレーションとして参加者とともに協働体験できる場所とする端緒を形成した。人材育成に関して、当該頁に記載のとおり研修会を開催してきた。とくに、愛着障害の理解を深めるための専門家による研修、関連する分野の職員の連携と協力に関するコミュニケーショントレーニング、ソーシャルスキルトレーニング、ペアレンティングトレーニングなどスキルベースなアプローチは好評であった。

さらに家族再統合支援に関して、先駆的な取り組みをすすめるイギリスの制度と実践に関する調査を実施した。イギリスで類似の取り組みをおこなう地域を選定し、実践者、研究者、行政制度の連携を現地調査したのでその成果を活かす。

3. 理解普及のための活動とその成果

(1) 展示会への出展等

特になし

(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2010/5/8 ~ 2011/2/	男親塾	クレオ大阪中央	年24回開催。虐待父親向けのプログラムの一部で、月2回のグループワークを開	児童相談所	

19			催		
2010/12/12	シンポジウム「庭内暴力をのりこえる「家族臨床理論」の構築に向けて～虐待を解決する取り組みの最前線からの問題提起～」	立命館大学アカデミア@大阪 6F6A教室	大阪市・大阪府の各児童相談所と連携して取り組んでいる「家族再統合事業」の具体例などを紹介しながら、虐待する親の特性に配慮し、家族関係という相互作用を舞台に展開される心理臨床的な支援のあり方や、子どもの自己決定の支援、被虐待児ケアの内実、専門的制度の関与の仕方等について、そのプロセスに関わる対人援助職者が議論を展開した	児童相談所、児童養護施設、児童養護関連グループ等	参加人数：96名。事前申込みが定員を超えた。
2011/1/15	研修会「効果的なケース会議の進め方」	大阪市子育ていろいろ相談センター 研修室	ケース会議を有効に進めるためのファシリテーションスキルとホワイトボードの効果的な活用について学んだ	児童相談所、児童養護施設	参加人数：26名。事前申込みが定員を超えた。
2011/2/11	研修会「アタッチメント（愛着）に基づく関係性の評価と介入のヒント」	ヴィアーレ大阪 4階 ローザホール	援助者として親子関係を評価する際に役に立つアタッチメント理論とサークル・オブ・セキュリティプログラムについて学ぶことができた	児童相談所、児童養護施設	参加人数：39名。事前申込みが定員を超えた。

(3) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

④雑誌掲載 「人類が生き延びるためにーインタビュー 中村正さん」

『生活と自治』、第493号、生活クラブ事業連合生活協同組合連合会発行、2010年5月

(4) 論文発表（国内誌6件）

中村正「社会臨床の視界（4）社会の詩的言語としての臨床と表象」『対人援助学マガジン（デジタル）』第4号、日本対人援助学会、2011年3月

中村正「社会臨床の視界（3）社会臨床という思考のレッスンーメビウスの輪のようになじれてつながる関係性を理解するー」『対人援助学マガジン（デジタル）』

- 第3号、日本対人援助学会、2010年12月
中村正「社会臨床の視界（2）「あいだ」への関心ー加害者臨床ー」『対人援助学マガジン（デジタル）』第2号、日本対人援助学会、2010年10月
中村正「加害者臨床のめざすことーDV・虐待に焦点を当てた脱暴力への支援をとおして」『季刊刑事弁護』第64号、2010年10月
中村正「社会臨床の視界（1）歴史のなかの臨床課題」『対人援助学マガジン（デジタル）』第1号、日本対人援助学会、2010年7月
中村正「親密な関係性における虐待・暴力と加害者臨床論ー虐待的パーソナリティ論の検討をとおして」『立命館産業社会論集』第46巻第1号、2010年6月
*すべて公表可能

(5) WEBサイトによる情報公開

- 立命館大学人間科学研究所ホームページ
<http://www.ritsumeihuman.com/>
日本対人援助学会 上記(4)記載のデジタルマガジン（第1号から第3号まで）
<http://www.humanservices.jp/magazine/index.html>

(6) 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

- 中村正「司法臨床の可能性ー加害者治療の観点からー」、法と心理学会第11回大会、立命館大学、2010年11月
中村正「対人援助における身体と生活」、日本対人援助学会第2回大会、立命館大学、2010年11月

(7) 特許出願

特になし

(8) その他特記事項

国内の児童相談所の視察（2011年1月27日～28日）

於：千葉県君津児童相談所・神奈川県中央児童相談所

家族再統合に向け、積極的に取り組んでいる児童相談所を視察し、来年度の研究へのいかすこととした。両児相とも、家族への介入を強化し、その養育は虐待にあたりと保護者に直面化しつつも、家族との協働を重視し、リスクだけに注目するのではなく、家族応援会議などを開催し、家族の持つストレスを引き出すことで、リスクを軽減していく支援を行っていた。そのためのツールとして、サインズ・オブ・セイフティやコモンセンス・ペアレンティングを有効に活用し、それらのツールを職員全体へと汎化させる研修・勉強会などの工夫を行っていた。親子関係や子どもの状態を把握するアセスメントを効果的に活用していた。